

2026年度 長岡大学シラバス

授業科目名	地域活性化論 (RegionalVitalization)					担当教員	大竹 幸輔 (オオタケ コウスケ)	
2020-23年度 入学者(20K-23K)	科目コード	科目区分	必修・ 選択区分	単位数	配当年次	開講期	科目 特性	地域志向科目/知識定着・確認 型 AL/外部講師招聘科目
	2036-0-23-073	専門科目	選択	2単位	2年次	前期		
2024-26年度 入学者(24K-26K)	科目コード	科目区分	必修・ 選択区分	単位数	配当年次	開講期	科目 特性	地域志向科目/知識定着・確認 型 AL/外部講師招聘科目
	2436-0-23-012	専門科目	選択	2単位	2年次	前期		

① 授業のねらい・概要						
地域活性化に関して、地域の特性との関連性からより効果的な活動とは何かを考察しながら、実践活動の基礎的な知識・ノウハウを身につけることを目的とする。 特に情報発信におけるデザイン性の重要性、仲間づくりの重要性と、そのノウハウについて研究し、住民の性質からどのように地域との関係構築を図るべきか考える力を身につけ、最終的には地域ビジネスのあり方を考察するための知識を身につける。						
② ディプロマ・ポリシーとの関連						
1 地域社会に貢献する姿勢 2 職業人として通用する能力 3 専門的知識・技能を活用する能力 4 コミュニケーション能力 5 情報収集・分析力						
③ 授業の進め方・指示事項						
講義は、パワーポイントを活用し講義を行う。 講義の最初に、前回講義の復習。 地域活性化活動にまつわるゲスト講師を招聘する場合あり。 公共交通機関の遅延など正当な理由のない遅刻・途中退席なし。 講義内で、学生間でのディスカッションあり。						
④ 関連科目・履修しておくべき科目と履修に望ましい予備知識・技能						
「地域経営」の受講を推奨する。						
⑤ テキスト(教科書)※授業で使用する。						
指定なし。必要に応じて都度資料配布。						
⑥ 参考図書・指定図書 ※授業では使用しないが、授業内容に関係し、理解を深めるために必要とする。						
デザインの手がかかり 尾原史和						
⑦ 担当教員からのメッセージ(昨年度授業アンケートを踏まえての気づき等)						
そもそも地域活性化活動とは必要か?の是非からの考察となります。地域活性化についての意識の深化を求めます。						
⑧ 評価Aに対応する具体的な学習到達目標の目安						
(1)地域活性について、各自が思うあり方を簡潔に提示できる。 (2)団体構築、情報発信を含めた地域活性化手法を説明できる。 (3)地域活性化手法を用い、地域活性化の具体策を構築することができる。						
⑨ ルーブリック						
評価基準		S	A	B	C	D
評価項目		到達目標を越えたレベルを達成している	到達目標を達成している	到達目標達成にはやや努力を要する	到達目標達成には努力を要する	到達目標達成には相当の努力を要する
(1)	地域活性化に関する能動的なあり方	独自のスタンスができており、それが効率的かつ説得力のあるものを提示できる	地域活性化に関する、独自の考察ができ、具体的な目標設定ができる	地域活性化に関する、独自の考察ができる	地域活性化に関する、独自の考察が、教員の支援でできる	地域活性化に関する、独自の考察が、教員の支援があってもできない
(2)	地域活性化手法の理解と説明	自身のコンセプトにあった地域活性化に関する団体発足ができ、活動環境を構築できる	自身のコンセプトにあった、地域活性化に関する団体発足のための知識がある	自身のコンセプトにあった、地域活性化に関する団体の性質を確定できる	自身のコンセプトにあった、地域活性化に関する団体の性質を教員の支援のもと確定できる	自身のコンセプトにあった、地域活性化に関する団体の性質を教員の支援があっても決められない
(3)	地域活性化の具体策構築	斬新かつ地域と時代にマッチした具体策を提示でき、実施できる環境構築の具体案が提示できる	斬新かつ地域と時代にマッチした具体策を提示できる	地域にマッチした具体策を提示できる	地域にマッチした具体策を教員の支援のもと提示できる	地域にマッチした具体策を教員の支援があっても提示できない

⑩ 学習の到達目標（評価項目）とその評価の方法、フィードバックの方法							
学習到達目標（評価項目）	定期試験 (レポート含む)	小テスト	課題	発表・ 実技	授業への 取組姿勢・意欲	その他	合計
総合評価割合	60%		30%		10%		100%
(1) 地域活性について、各自が思うあり方を簡潔に提示できる	20%		10%		4%		34%
(2) 団体構築、情報発信を含めた地域活性化手法を説明できる	20%		10%		3%		33%
(3) 地域活性化手法を用い、地域活性化の具体策を構築することができる	20%		10%		3%		33%
評価項目「その他」詳細							
フィードバックの方法	初回講義内で、成績評価の方法・基準、講義の進め方、試験の方法等について、具体的に説明するので、出席すること。						
⑪ 授業計画と学習課題							
回数	授業の内容	授業外の学習課題と時間（分）（※特別な持参物）					
1	地域活性化の必要性	地域の現状と課題を分析し、活性化の必要性を考える。					60分
2	地域の資源を再発見	長岡市の歴史、文化、自然資源を再評価し、活用方法を模索する。					120分
3	市民参加の促進	市民が地域活性化に参加する重要性とその方法について議論。					120分
4	デザイン思考入門	デザイン思考の基本概念と地域活性化にどう活かすかを学ぶ。					120分
5	事例研究 - 成功した地域活性化プロジェクト	他地域の成功事例を紹介し、長岡市に適用できる要素を探る。					120分
6	地域ブランディングの重要性	長岡市のブランドを構築するための戦略と手法を検討。					120分
7	地元産業の振興	地元産業の現状を分析し、振興策を考える。					120分
8	デザイン性の向上	地域の公共スペースやイベントにデザインを取り入れる方法を学ぶ。					120分
9	観光資源の開発	長岡市の観光資源を掘り起こし、新たな観光プランを提案。					120分
10	デジタル活用による地域活性化	SNS や Web サイトを活用した地域の情報発信の方法を学ぶ。					120分
11	地域の健康促進	健康づくりをテーマにした地域活動のアイデアを考える。					120分
12	持続可能な地域づくり	環境への配慮を考えた持続可能な地域活性化の方法を探る。					120分
13	地域交流の促進	地域住民同士の交流を深めるためのイベントや活動を計画。					120分
14	若者の参画促進	若者が地域活性化に参加するための施策とアイデアを考える。					120分
15	最終発表会	各参加者が提案した地域活性化プロジェクトを発表し、フィードバックを受ける。					120分
⑫ アクティブラーニングについて							
知識定着・確認型 及びディスカッションを通じた AL を採用する。 各回において、ディスカッションを実施し、自発性の高い学習とノウハウ習得を目指す。							

※以下は該当者のみ記載する。

⑬ 実務経験のある教員による授業科目	
実務経験の概要	
1995 年からグラフィックデザイナー。2002 年からデザイン業務と並行しデザイン系専門学校の教職。トチオノアカリ協議会など地域団体をいくつか発足し、継続。長岡市最初のワイナリーの設立、経営。	
実務経験と授業科目との関連性	
種々のイベントの実施と、それらに関連する団体の設立、補助金や支援者の獲得。及びデザインを通じたブランディング。	